

令和元年度 第4回 久留米市地域公共交通会議 議事

《議 案》

議案第9号 第2期久留米市地域公共交通網形成計画の
数値指標及び実施施策について ----- P 1

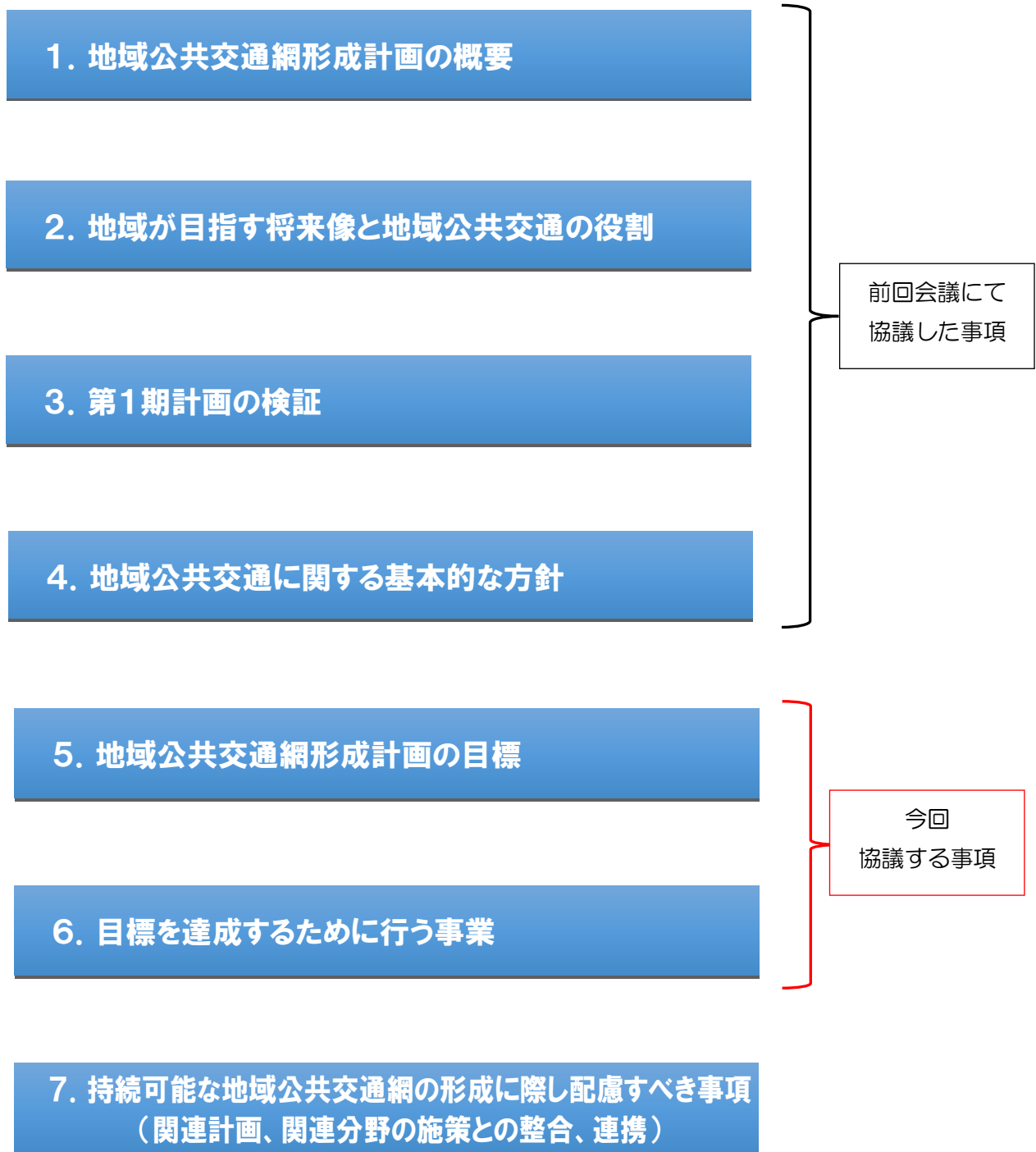
議案第 9 号

第 2 期久留米市地域公共交通網形成計画の
数値指標及び実施施策について

第 2 期久留米市地域公共交通網形成計画の数値指標及び実施施策の方向性について、別紙のとおり承認を求める。

令和 2 年 2 月 1 2 日提出

第2期久留米市地域公共交通網形成計画の構成



1. 地域公共交通網形成計画の概要

1) 地域公共交通網形成計画とは

- ◎市が中心となりまちづくりと一体となって、関係者と合意のもと、持続可能な公共交通ネットワークサービスを形成するための計画です。
- ◎鉄道、路線バス、タクシー等、全ての公共交通を含めた包括計画として策定します。
- ◎市の総合計画や立地適正化計画などと整合し、役割分担や数値指標を明確化します。
- ◎国が定めた者で構成される協議会（法定協議会）の議論を経ての策定が必要です。

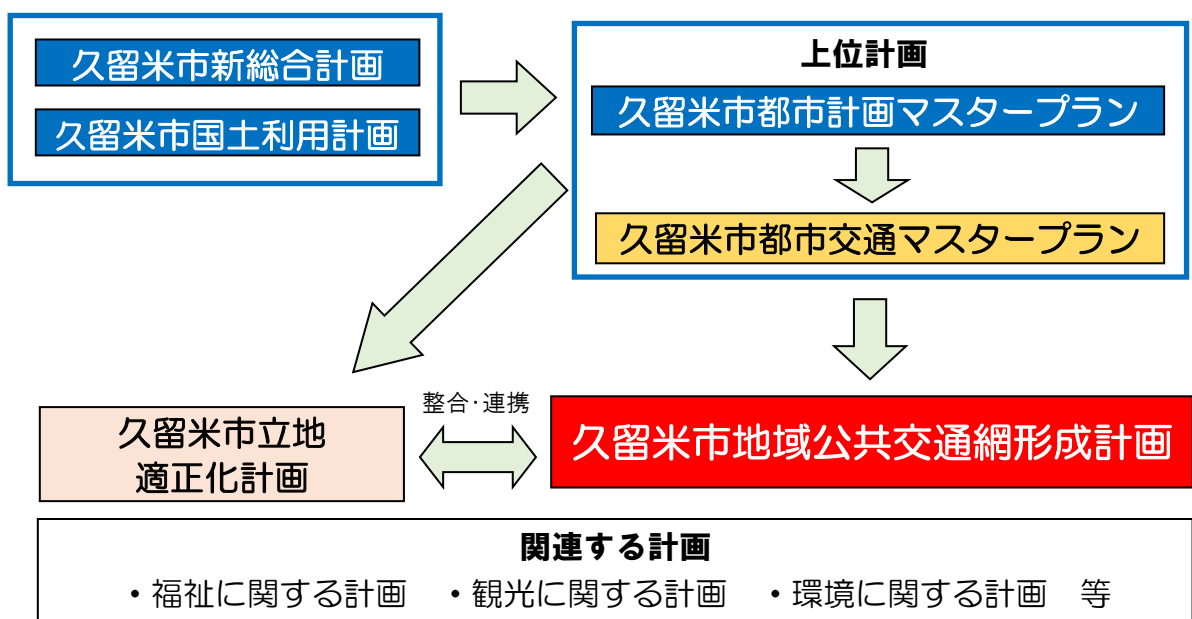
<計画策定のメリット>

- ①市として取り組む施策や検討内容が明確化され、関係者間で共有できる。
- ②関係者と協議を行い策定するため、策定後、事業者調整が円滑に進む。
- ③国の補助（運行、利用促進等）の優遇措置がある。

2) 地域公共交通網形成計画策定の目的について

久留米市地域公共交通網形成計画は、久留米市が目指す「コンパクトな拠点市街地の形成と拠点をネットワークする都市構造」を実現するための、地域公共交通の在り方を検討するとともに、本市が抱える地域公共交通の問題に対応し、将来にわたって市民の生活を支える「持続可能な地域公共交通体系」の構築に向けた取り組みを定めるものです。

3) 形成計画の位置づけ

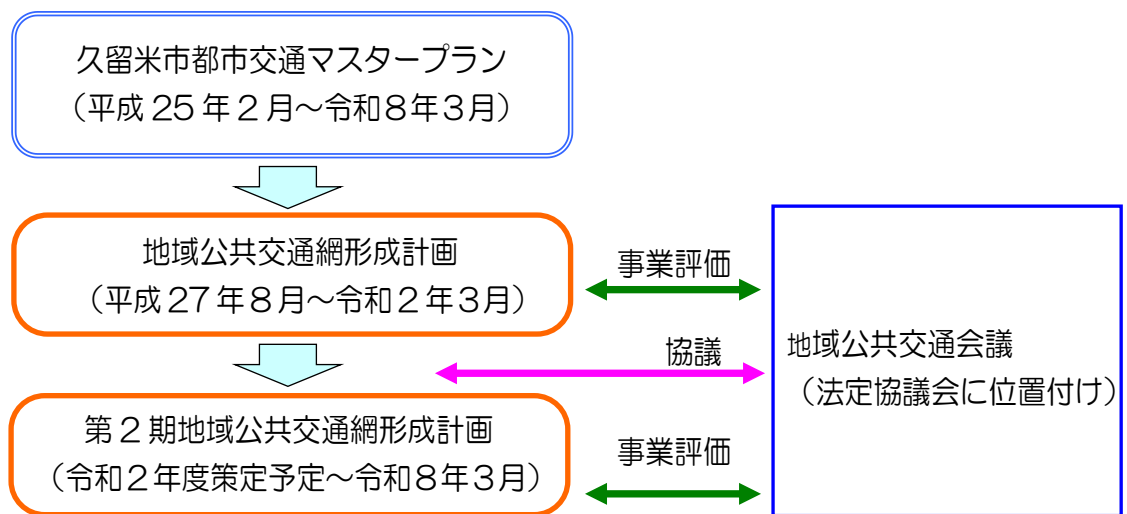


4) 第2期久留米市地域公共交通網形成計画の方針について

久留米市地域公共交通網形成計画は、平成27年から令和元年度末までを計画期間とした5か年計画として平成27年8月に策定され、市民、事業者、行政がそれぞれの役割を担い、生活支援交通「よりみちバス」の導入をはじめ、様々な交通政策に取り組んでまいりました。今後も、少子化や超高齢社会の進展などに伴う社会情勢の変化に対応し、地域公共交通の様々な課題を解消するためには、継続的に取り組みを進めていくことが重要です。

【次期計画の方針】

- ◎形成計画は都市計画マスタープラン、都市交通マスタープランを上位計画とした計画であり、次期計画の目標像、基本方針は上位計画の方針に則します（現計画を継続）。
- ◎実現性、実効性の高い施策を検討し、着実に実施します。
- ◎公共交通を取り巻く新たな課題に対しても対応していきます。

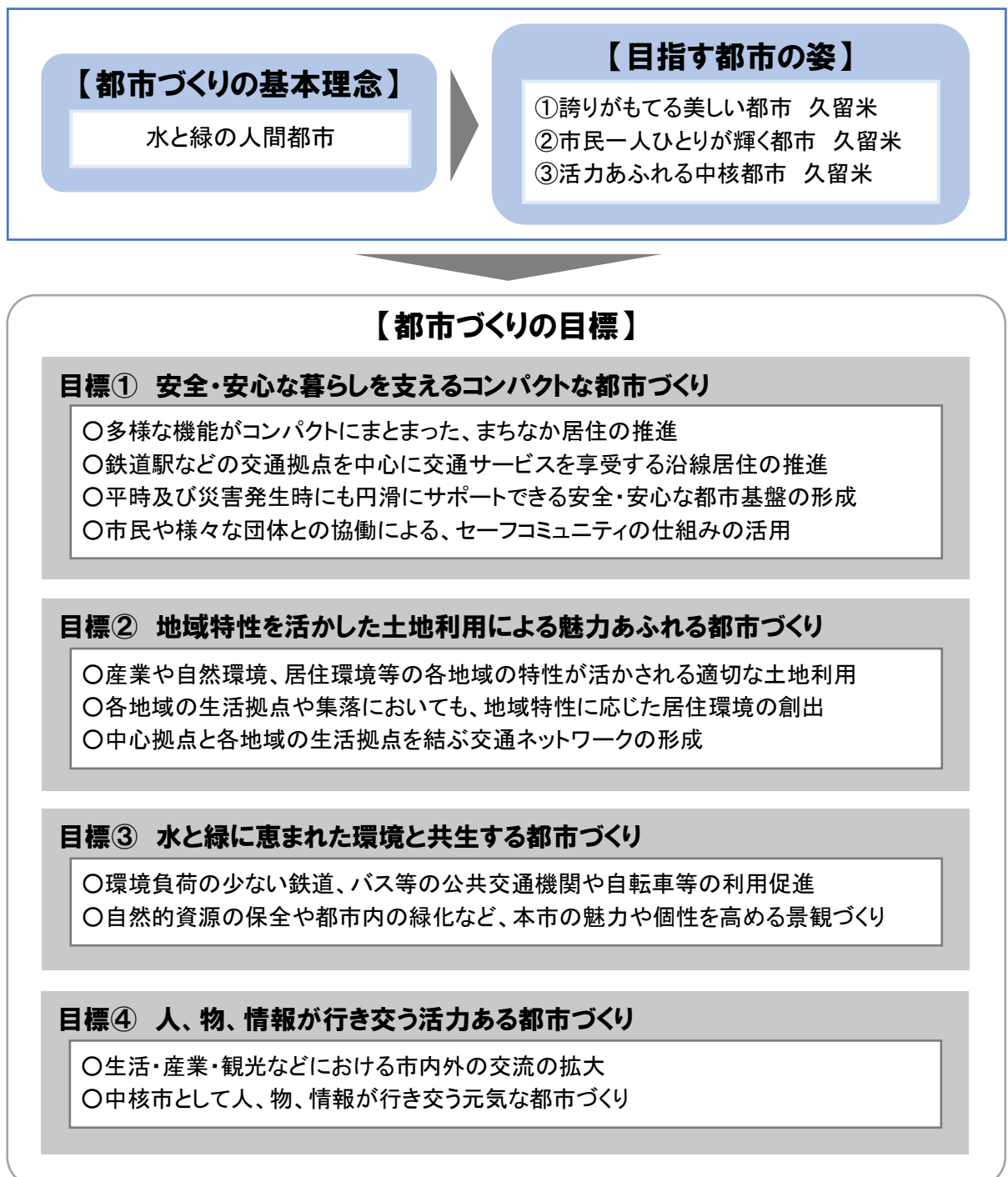


2. 地域が目指す将来像と地域公共交通の役割

1) 地域が目指す将来像について

本市の都市づくり全般に関わる基本計画である「久留米市都市計画マスタープラン」では、「水と緑の人間都市」を基本理念として、4つの“都市づくりの目標”を定めています。

地域公共交通においても、これらを目標とした取り組みを推進し、地域が目指す将来像の実現に寄与していくことが求められます。



2) 地域公共交通が果たすべき役割について

地域が目指す将来像の実現に向けて、地域公共交通は以下のような役割を果たしていく必要があると考えられます。

【地域公共交通が果たすべき役割】

- 多様な機能がコンパクトにまとまった生活圏の形成や、まちなか居住の推進を支援する役割
- 産業や自然環境、居住環境等の各地域の特性が活かされる適切な土地利用の誘導を支援する役割
- 商業・業務・行政・交通・文化などの拠点として活発な交流を牽引する中心市街地の活力向上を支援する役割
- 地域間のみならず市内外の連携・交流の充実を図り、バランスある都市発展を支援する役割
- 本市の強みを活かして市内外の交流拡大を図り、広域求心力の維持・向上を支援する役割
- 子どもから高齢者まで、誰もが快適に安心して生活できる居住環境の形成を支援する役割
- 運輸部門の温室効果ガス排出量を削減し、環境負荷が少ない都市づくりを支援する役割
- 地域特性に応じて、幅広い世代が多様な生活様式を実現できる居住環境の創出を支援する役割
- 居住機能と生活機能が融合した市民の日常生活を支える拠点の維持・充実を支援する役割

3) 地域公共交通の目標像

地域が目指す将来像を実現していくためには、地域公共交通が果たすべき役割を担うことで“都市づくり”を交通面から支え、持続可能で都市活力を生み出し、安全・安心に移動できる地域公共交通体系を構築していくことが重要になります。

このため、ここでは地域公共交通が果たすべき役割を踏まえた上で、「都市活力の向上」、「安全・安心な暮らしの実現」の2つの視点から、地域公共交通の目標像を定めます。

【地域公共交通の目標像】

「都市活力の向上」の視点

目標像1 久留米市の強みを活かし、活力を育む地域公共交通体系

社会情勢の変化に伴い本格化する都市間競争の中で、他都市との連携・交流や定住を促進し、県南地域の中核都市として発展し続けるよう、利便性の高い広域交通網や恵まれた地域資源等の本市の強みを活かし、活力を育む地域公共交通体系の形成を進めていきます。

○まちなかに便利で快適な地域公共交通のあるまち

多様な都市機能が集積し、多くの人が訪れる中心拠点においては、誰もが安心・快適で回遊性の高い、歩いて暮らせる交通環境を提供し、まちなかに便利で快適な地域公共交通のあるまちを目指します。

○市域内外の連携・交流を高める地域公共交通のあるまち

鉄道を主体とした公共交通を有効に活用することで、スムーズな地域間の移動の提供を図り、市域内外の連携・交流を高める地域公共交通のあるまちを目指します。

○豊かな地域資源を活かす地域公共交通のあるまち

観光地、文化交流施設等への快適で利便性の高い移動環境の提供を図り、豊かな地域資源を活かす地域公共交通のあるまちを目指します。

「安全・安心な暮らしの実現」の視点

目標像2 誰もが安全・快適で、安心して暮らせる地域公共交通体系

高齢者をはじめとする全ての市民が、日常生活における交通の利便性や安全性を享受し、誰もが安全・快適で、安心して暮らせる地域公共交通体系の形成を進めていきます。

○安全・快適に移動できる地域公共交通のあるまち

日常生活において、安全・快適な公共交通の利用環境を構築し、連続した安全な交通環境の提供を図り、誰もが安全・快適に移動できる地域公共交通のあるまちを目指します。

○安心して暮らせる地域公共交通のあるまち

郊外部における多様な移動手段の提供や、環境負荷が小さい移動の実現を図り、誰もが安心して暮らせる地域公共交通のあるまちを目指します。

3. 第1期計画の検証

現計画の概要及び進捗状況

目標像

1 久留米市の強みを活かし、活力を育む地域公共交通体系

目標像

2 誰もが安全・快適で、安心して暮らせる地域公共交通体系

基本方針1 市域内外の連携を支える地域公共交通網を形成します

取り組み施策	実施した主な事業	関連指標
①主要駅の駅前広場等の整備	犬塚駅前広場整備	①②⑦
②公共交通相互を円滑に乗り継ぎできる拠点の整備	善導寺駅トイレ整備	①②⑦
③幹線バス路線の主要バス停の環境改善	バス停上屋整備	①③⑦
④交通ICカード利用可能エリアの拡大	協議会にて要望	①⑦
⑤市街地フリー乗車券等の導入の検討	路線バス1日フリー乗車券(社会実験)	①③④⑦
⑥公共交通を一体的に利用可能な運賃施策の検討	西鉄・よりみちバス共通乗車券	①⑦

基本方針2 魅力と賑わい溢れる中心拠点づくりを支援する地域公共交通環境を形成します

取り組み施策	実施した主な事業	関連指標
①中心拠点における公共交通のあり方の調査・研究	検討に留まる	①②③⑦
②中心拠点周辺の市街地における公共交通のあり方調査・研究	外環状道路の路線バス需要調査	①⑦
③パーク＆ライド駐車場の確保	検討に留まる	①②⑦
④バスの運行状況に関する情報提供の充実	バスロケ表示機の整備	①③⑦

基本方針3 地域資源を活かした観光振興を支援する地域公共交通環境を形成します

取り組み施策	実施した主な事業	関連指標
①JR久大本線への新駅の設置	協議会にて要望	①④⑤⑦
②企画乗車券等の新設	西鉄バス草野線日帰りバスパック	①④⑦
③観光施策との連携による公共交通に関する情報提供の充実	イベントチラシ等への公共交通情報掲載	①②③④⑦

基本方針4 多様なニーズに見合った生活交通を充実していきます

取り組み施策	実施した主な事業	関連指標
①持続可能な地域公共交通網構築のための輸送の見直し	路線バスとよりみちバスの接続	①②⑦
②利用が低迷する路線バス運行エリアにおける移動手段の維持	補助路線周辺住民への時刻表の配布	①⑦
③公共交通空白地域等への生活支援交通の導入	よりみちバス2地域、コミタク17校区	①⑤⑦
④生活利便施設等から利用しやすい停留所の設置	若宮、草野、北野線等の路線改正	①⑦

基本方針5 誰にとっても安全な地域公共交通環境を整えていきます

取り組み施策	実施した主な事業	関連指標
①主要駅等へのユニバーサルデザインの導入	検討に留まる	①②⑥⑦
②低床バス(バリアフリー対応車両)の普及促進	ノンステップバス3台導入予定(R1)	①③⑦
③交通拠点等での分かりやすい情報案内・誘導の実施	バスロケ表示機の整備	①②③⑦
④高齢者の公共交通利用に対する支援	検討に留まる	①②③⑦

基本方針6 環境負荷が小さい移動手段である公共交通への転換を図ります

取り組み施策	実施した主な事業	関連指標
①鉄道駅・バス停でのサイクル＆ライド駐輪場の確保	市営：鉄道27カ所、バス停3カ所	①②③⑦
②モビリティ・マネジメント、ノーマイカーデー等の実施	バス乗り方教室の実施	②③⑦
③公共交通に関する分かりやすい情報提供の実施	公共交通マップの配布	①②③④⑦

基本方針7 公共交通利用者の維持・拡大を図ります

取り組み施策	実施した主な事業	関連指標
①地域の公共交通に対する“愛着”の醸成	バス・鉄道フェスタの開催	①②③⑦
②主要施設との連携による公共交通利用のきっかけづくり	路線バス1日フリー乗車券(社会実験)	①③④⑦

取り組み姿勢 市民等、交通事業者、行政のみんなで地域公共交通施策を進める

取り組み施策	実施した主な事業	関連指標
①地域の要望や移動需要の変化に対応する仕組みづくり	生活交通検討会、コミタク校区支援	①⑤⑦
②地域や企業との協働による運賃以外の収入確保の検討	検討に留まる	—

数値指標の達成状況

【達成状況の評価】○:目標を達成 △:目標は未達成ながらも算定時より改善 一:算定時から改善していない

No	評価指標	計画策定時	H27年度末	H28年度末	H29年度末	H30年度末	目標値	達成状況
①	市民の公共交通に対する満足度	3.23	未調査	3.52	3.12	3.24	3.4	△
②	人口に対する市内主要鉄道駅の乗降客数	76 回/人・年	74	75	75	76	80	—
③	中心拠点内の乗降客数割合	71.1 %	70.8	71.3	71.3	72.1	72.6	△
④	久留米市の年間観光入込客数	515 万人/年	518	525	537	591	700	△
⑤	公共交通空白地域の面積	90 km ²	69	69	69	69	45	△
⑥	主要駅のバリアフリー化率	33 %	33	33	33	33	58	—
⑦	地域公共交通利用率	136 回/人・年	133	135	135	136	143	—

指標①の考察

駅前広場の整備や交通サービスの改善などの直接的に交通サービスが改善される事業の進捗が停滞しており、公共交通に対する満足度は大きく向上せず、目標未達となった。しかしながら、犬塚駅の広場整備やよりみちバスの導入など、事業が着実に進捗した地域や高齢者の評価は改善している。

指標②の考察

駅前広場の整備や交通結節点の環境改善など、利便性向上に貢献する事業の進捗が停滞したため、主要駅の利用者数は増加せず、目標未達となった。しかし、事業を着実に実施した犬塚駅の利用者数は増加しており、事業効果が発現している。

指標③の考察

西鉄久留米駅のバスターミナル高機能化や、JR～西鉄間のバス再編は検討にとどまっているが、中心拠点づくりを支援する事業として、バス停上屋、バスロケ表示機の整備を実施した。目標未達ではあるが、中心拠点内の人口増、シティプラザの開業などの影響により、中心拠点内の公共交通利用は増加傾向にある。

指標④の考察

久留米市観光・MICE戦略プランに基づく観光施策の着実な実施によって、目標未達ではあるが、観光入込客数は増加し指標は改善されている。観光客の公共交通による移動を円滑にするために、観光振興と交通施策との連携を一層進めていくことが求められる。

指標⑤の考察

H27年度の2地域への「よりみちバス」導入により一定の改善はあったものの、その後の展開が停滞しており、目標未達となった。一方で、コミュニティタクシー制度の拡充により、対象者は限られるものの、実質の空白地域は解消傾向にあると捉えられる。

指標⑥の考察

目標とした3駅(荒木・大善寺・宮の陣)について、交通事業者と共に検討を行っているものの、計画期間内での事業化には至っていない。交通結節機能の強化と合わせて、今後も行政と交通事業者で、継続して検討を進めていくことが求められる。

指標⑦の考察

目標値は人口が29万人まで減少した想定の中で、公共交通利用者数を維持することを目的としていたが、結果として人口は計画策定時から横ばいであり、公共交通利用者数は微増しているため、目標未達ではあるが、公共交通利用の維持は達成できていると捉えられる。

検証結果

総括

- 公共交通の利用促進やバス利用環境の改善、よりみちバス、コミュニティタクシーの導入による移動手段の確保など、取り組みが可能な事業から順次計画を進めてきており、中心拠点へのアクセスの向上や公共交通空白地域の改善などの効果も見られる。
- 一方で、中心拠点及び生活拠点の交通結節点機能の強化といったハード面や、公共交通空白地域の解消などのソフト面での施策展開では、検討に留まっている事業や、現在取り組んでいるものも十分な効果発現まで至っていない状況にある。
- 各種施策を着実に実施し、発現した効果をさらに大きく成長させていく必要がある。
- 数値指標の結果からは、実施した事業の効果が十分に発現していないと捉えられる一方で、目標値の中には将来推計人口を基に設定するなど、実態との乖離が生じたものもある。
- 事業効果が適切に反映される指標を新たに検討する必要がある。

効果

- 駅前広場整備及びよりみちバス乗入れを行った西鉄犬塚駅からの中心拠点へのアクセス性向上
- 公共交通空白地域における移動手段の確保
- 市民はもとより来街者にもわかりやすい情報提供環境
- 高齢者にもやさしい利用環境
- 公共交通に対する興味・関心の向上、満足度の改善

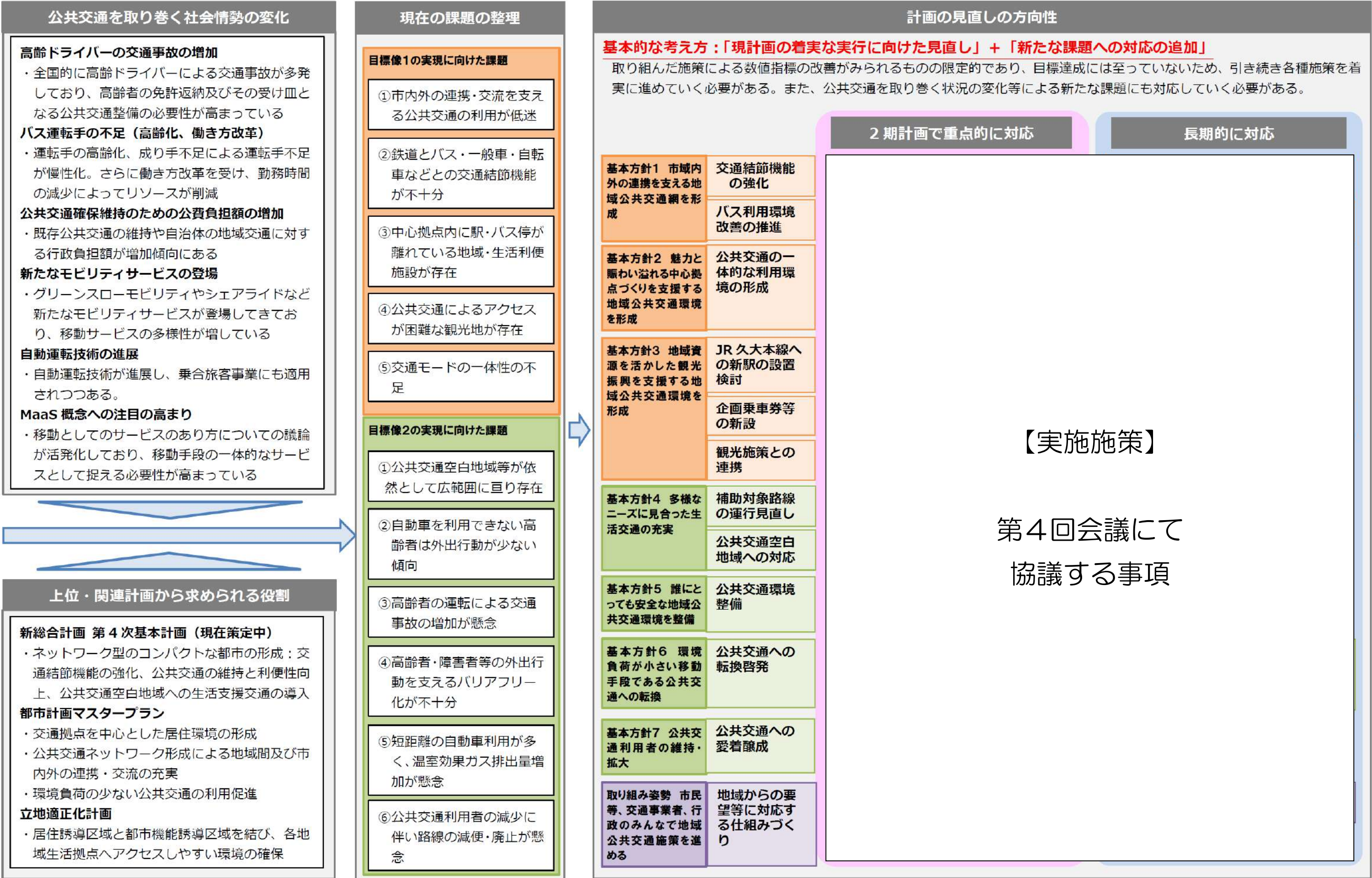
課題

- 中心拠点、地域生活拠点の駅の交通結節機能の強化
- 補助路線の生産性向上
- 公共交通空白地域のさらなる解消
- 鉄道におけるバリアフリー化の促進
- さらなる公共交通利用の促進
- より一層の観光振興との連携推進

現計画を見直す上での留意点

- 交通事業者等との事業化についての共通認識
- 庁内の関係部署との施策の共有化(戦略的な実施)
- 校区コミュニティ組織、地域住民との連携

4. 地域公共交通に関する基本的な方針



5. 地域公共交通網形成計画の目標

6. 目標を達成するために行う事業

基本方針		計画の目標	数値指標	現況地 H30 年度末	目標値 R7 年度末	実施施策	
						短期的に対応	中長期的に対応
(計画全体に対する目標)		目標 1 公共交通に対する市民の満足度向上	(変更)指標 1：市民の公共交通に対する満足度 市民のニーズに対応した取り組みを推進することで、公共交通に対する満足度が向上する。	52.6 %	56.0 % +3.4 ポイント	—	—
目標像 1 久留米市の強みを活かし、活力を育む地域公共交通体系	基本方針 1 市域内外の連携を支える地域公共交通網を形成	目標 2 市内内外の交流の活発化	(変更)指標 2：市内主要鉄道駅の乗降客数 市域内外の移動を支える鉄道や幹線バスの機能向上を図ることなどにより、市内内外の交流が活発化することで、人口が減少する中でも、市内の主要鉄道駅の乗降客数が維持される。	2,278 万人/年	2,278 万人/年 維持	・乗り継ぎ拠点・主要バス停の環境改善	・主要駅の駅前広場等の整備 ・交通 IC カード利用可能エリアの拡大
	基本方針 2 魅力と賑わい溢れる中心拠点づくりを支援する地域公共交通環境を形成	目標 3 中心拠点への外出機会増加と回遊促進	指標 3：中心拠点内の乗降客数割合 中心拠点へのアクセスや、中心拠点内の回遊の利便性を高めることなどにより、中心拠点への外出機会の増加や中心拠点内の回遊行動の促進が進み、中心拠点内の鉄道駅・路線バスの利用客数が相対的に増加する。	72.1 %	74.1 % +2.0 ポイント	・バスの運行状況に関する情報提供の充実	・中心拠点における公共交通のあり方の調査・研究 (新規) ・新たなモビリティの導入検討
	基本方針 3 地域資源を活かした観光振興を支援する地域公共交通環境を形成	目標 4 地域資源を活かした観光振興を支える交通環境の整備	指標 4：久留米市の年間観光入込客数 観光客にとっても利用しやすい地域公共交通サービスを提供することなどにより、地域資源を活かした観光振興が図られ、久留米市の年間観光入込客数が増加する。	591 万人/年	630 万人/年 +39 万人	・JR 久大本線への新駅の必要性検討 ・企画乗車券等の新設 ・観光施策との連携による公共交通に関する情報提供の充実 (新規) ・移動手段の一体的なサービスの提供	
目標像 2 誰もが安全・快適で、安心して暮らせる地域公共交通体系	基本方針 4 多様なニーズに見合った生活交通の充実	目標 5 より多くの市民等への公共交通サービスの提供	(変更)指標 5：生活支援交通の導入校区数 公共交通空白地域に地域特性や需要に応じた生活支援交通の導入促進を図ることで、生活支援交通導入校区が増加する。	20/46 校区	46/46 校区 +26 校区	・持続可能な地域公共交通網構築のための輸送の見直し ・利用が低迷する路線バス運行エリアにおける移動手段の維持 ・公共交通空白地域等への生活支援交通の導入 ・生活利便施設等から利用しやすい停留所の設置	
	基本方針 5 誰にとっても安全な地域公共交通環境を整備	目標 6 誰もが利用しやすい公共交通環境の整備	指標 6：主要駅のバリアフリー化率 高齢者や障害者の公共交通を阻害する要因を改善するため、鉄道駅のバリアフリー化を図ることで、市内の主要鉄道駅のバリアフリー化率が上昇する。	36 %	63 % +27 ポイント	・低床バス（バリアフリー対応車両）の普及促進 ・高齢者の公共交通利用に対する支援	・主要駅等へのユニバーサルデザインの導入 ・交通拠点等での分かりやすい情報案内・誘導の実施
	基本方針 6 環境負荷が小さい移動手段である公共交通への転換	目標 7 人の移動に係る環境負荷の低減	(変更)指標 7：地域公共交通利用客数 公共交通サービスの改善とともに、利用促進を図ることで、より多くの市民が公共交通を利用するようになり、人口が減少する中でも、地域公共交通利用客数が維持される。	4,169 万人/年	4,169 万人/年 維持	・モビリティ・マネジメントの実施 ・公共交通に関する分かりやすい情報提供の実施	・鉄道駅・バス停でのサイクル&ライド駐輪場の確保 ・パーク&ライド駐車場の確保
	基本方針 7 公共交通利用者の維持・拡大	目標 8 地域公共交通の持続可能性の向上				・地域の公共交通に対する“愛着”の醸成 ・主要施設等との連携による公共交通利用の“きっかけ”づくり	